

部活動の集大成 の場の検討は



市民ネット 城陽 敏
上原

問

小・中学校の音楽の授業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながらどのように実施しているのか。制限がある中でも、子どもたちにとって十分な学習内容になるよう授業の工夫を。

問

中学校の部活動は子どもたちの学校生活の重要な部分を占めている。コロナ対策で大会開催が困難としても、最終学年まで積み重ねてきたことを発揮する集大成の場が必要と思うが、状況は。

問

①国の地方創生臨時交付金制度は、新型コロナウイルスで経済的にダメージを受けた本市の対象者にうまく生かされるか②事業者対象の災害対策緊急資金の融資に係る認定処理が他自治体に比べて遅いと聞く。状況は。

問

東部丘陵地の中問エリアは、今後対岸の学術研究都市と共生し、AI産業などの知的産業や研究機関を集めた先進技術発信地として構想してはどうか。市の考えは。

問

新型コロナウイルス感染症の初期症状はインフルエンザに類似すると言われる。インフルエンザに感染に備え①インフルエンザ予防接種補助制度の拡大は②少なくとも0歳から中学3年生まで拡大の検討は。

問

コロナ禍で困窮する市内事業者への経済支援策として市はプレミアム商品券事業を検討しているが、前回実施時の個人経営者のもとの利用は17%にとどまり、寄与が少ないと考える。そこで、クラウドファンディング方式により、市民が利用先を指定し前払い購入するプレミアム付き応援チケットを発行してはどうか。

答

合唱やリコーダー・鍵盤ハーモニカ等の演奏は感染対策を講じてもリスクが高く、本市マニュアルに基づき、年間指導計画の順序を入れ替えるなどして、6月1日の学校再開後2週間は実施していない。15日以降は一定の距離を保ち一方方向を向いて口ずさむ程度の段階から学習活動をを行っている。今後は2週間を目安に段階的な緩和を考えていく。

答

全国大会へつながらる最後の夏の公式戦は、既に山城大会を含む全ての上位大会の中止が決定。今すぐ中止することは部活動卒業の日をつくり気持ちに区切りをつけさせてあげること。中体連担当の校長や顧問教諭が城陽だけの規模でも地区大会を開催できるよう努力しており、市教委も実現に向けて惜しみない支援を考えている。

答

①第1次補正分については、地域の实情に応じた広範な使途が認められるのを市として最大限に活用し、今議会で支援に向けた補正予算を追加する予定。対象者にはわかりやすい周知やきめ細かい窓口対応に努める②必要に応じ聞き取りを行い、不備があれば書類の加筆や修正を求めながら処理をしている。申請書類は金融機関を

答

通し提出されるのが大部分だが、相当の件数に上るため不備も多く認定に時間を要するケースもある。

答

①現在、法定予防接種として65歳以上を対象に実施している。任意接種での対象拡大は多額の費用を要するため、市単独で負担は困難であり、国に要望を行う②過去に法定予防接種であったが、後遺症訴訟等により任意接種に変更された経過がある。今後国の方針変更で制度が確立された際に、財源も含め検討し実施したい。

答

市民の利便性や運営主体などの課題から、市単独での実施は困難である。先行事例を研究し、方向性を見定めた。検討中の商品券事業は、個人事業者により還元される仕組みを工夫したい。

東部丘陵地を先 進技術発信地に



城陽絆の会
大西 吉文

インフル予防接種 の補助拡大は



城陽絆の会
土居 一豊